



武庫川起点



当野付近



武庫川からポンプで汲み上げて散水していた

草野付近の畑散水作業



汚れ読めなくなった日出坂の説明版

忘れられようとしている説明版



秋空に映える武田尾水管橋



コガモ(みエリフ)ス

夏日終わると行き成りカモ飛来した6堰

6月からの豊水期のを前に河川改修工事は一旦中断または終了。豊水期が終わる11月から川の中の工事が再開される。工事期間に入る前に武庫川起点から生瀬間を視察してきた。工事直後の武庫川起点付近は赤土むき出しの裸地状態だったが数ヶ月で草に覆われ自然な環境に戻った。オギ群落で知られた当野地区は巨礫の近自然護岸工法で整備され、川の中にも巨礫が並べられ豊かな自然が再生されている。武庫川と云えば武田尾峡谷がよく知られた景観地区ではあるが、当野地区も、春の桜・秋のオギに彩られる自然豊かな渓谷の景観が残され、これからも未永く渓谷風景残されていくことを願っている。草野付近で畑に散水作業中のホースの水何処から来ているのかとホースの先を辿っていくと川の中んエンジンポンプに行きついた。この付近は常襲の濁水・洪水地帯と云われている通り水には相当苦労している様子が伺われる。度々の洪水に悩まされてきた日出坂集落も、川の付け替えや洗堰が作られ降災害はなくなった。この改修工事の記念碑は草に覆われ、説明版は汚れて読めなくなっていた。災害と向き合ってきた記憶が忘れ去られないよう手入れするのも武庫川守活動領域かも？ 夏日が続いていたのに晩秋風景に一変した。武田尾水管橋も風景に溶け込み時間が景色を作り出すような気がして、自然の強かを感じた視察だった。